

外出編 ～高次脳機能障害③～ 注意障害・半側空間無視がある方の工夫や配慮点

※外出したいけど、どうしたらいい？と思ったら、身近にいる理学療法士、作業療法士、看護師、ケアマネジャー、ケースワーカー、保健師などに相談してみましょう。

注意障害があると見聞きする情報の一部しか入らない、気が散りやすいなどの症状が出ます。また、半側空間無視があると脳の損傷の反対側の物事を見落とす症状が出ます。このため、外出活動においては「周囲の段差や人・車、曲がり角、信号などに気がつかず危険な場面が生じる」「約束の日時・場所を誤る」などの状況として現れます。今回はこのような状況に対しての工夫や配慮点をご紹介します。

■ 周囲の状況に気付かず、ぶつかる・転ぶ・通りすぎる方への工夫

まずは、人や車の往来が少ない、歩道と車道間に仕切りがあるなど安全な経路を選びましょう。曲がり角などに気付きにくい場合は、例えば「オレンジの看板」など単純で本人にわかりやすい目印がある経路を選ぶとよいでしょう。【図1】同じ経路を反復し、気を付けるポイントが分かったら、車や人が来たら立ち止まる、目印を唱えながら歩くなど自分にあつた対応方法を身につけていくようにしましょう。外出に付き添う方は、不用意に話しかけず、本人への声掛けはアイコンタクトを取ってから短めの言葉で行いましょう。



【図1: 目印がある経路の例】

日時: ○月×日9:00

場所: △△駅

服装: 動きやすい服装

持ち物: タオル、水分補給できるもの

■ 約束の日時・場所を誤る方への工夫

電話など口頭で日時・場所等が伝達される場合、伝達する側は単純明快にキーワードを伝えるよう心掛けるとよいでしょう。本人に正確な情報が伝わったか復唱してもらうなどの確認をすることも安心です。書面で伝える場合も重要な箇所に線を引くなどの工夫が有効です。【図2】

【図2: 日時・場所を強調した文書の例】

■ 外出に向けて～チェックポイント～



外出を考えるときには次の点についても確認するとよいでしょう。

「体力、歩行能力は十分か？」

適切に周囲に注意を払うためには、体力と歩行能力に余裕が必要となります。本人が興味ある活動や通所サービスなどを取り入れて、体力や歩行能力を高めていきましょう。

「気づけるか？気づけないか？」

注意障害や半側空間無視がある方は、自分が「注意散漫になっている」「左側を見落としたりすくなっている」といったことを自覚していないことがあります。このような場合、周囲の人は本人が注意すべき点を一緒に確認し、要所要所で注意喚起することからはじめ、本人の気づき具合に応じて徐徐にかかわる量を減らしていくとよいでしょう。